

数値プロフィール

VOICE ATTRIBUTES

晶核 × 焔火

主 71 | 副 67 | 双核召喚

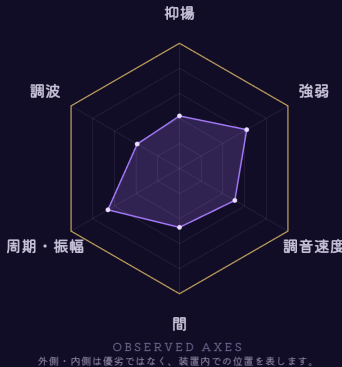
CONTRACTED FAMILIAR

◆◇^{べにはり}紅玻璃サラマンダー

強弱の火を透明な芯へ閉じ込め、焦点だけを赤くする。

独自魔力尺度 0-100 | 月 61 / 炎 67 / 霧 61 / 水晶 71 / 時 66 各属性を個別換算(合計非固定)。

観測 → 属性 → 使い魔 | 【音高安定幅 ±14.9 cent → 晶核 71】 + 【強弱 ±3.4 dB → 焔火 67】 → 紅玻璃サラマンダー

観測名 = 召喚名 | 月 = 月環 | 炎 = 焔火 | 霧 = 星霧 | 水晶 = 晶核 | 時 = 時環
観測軸「スペクトル重心」 = 朗読スペクトル重心 (0-8 kHz)

— 左：観測軸の輪郭 / 右：五属性魔力の召喚陣 —

計測値と読み解き

指標	実測値	目安・定義	読み解き
Ⅰ 語りの動き 固定朗読			
声の高さ	221 Hz	《女性音声の目安》 中央付近	基準中心 210 Hzから+0.9半音。選んだ目安の中央付近にあり、高さそのものより抑揚や音色の組み合わせが印象を作りやすい位置です。
抑揚の広がり	6.2 半音	4-8 半音(装置内目安)	自然な高低差で、強調点を無理なく作る幅です。
強弱の幅 (180 ms輪郭)	±3.4 dB	1.5-4.2 dB(装置内目安)	目安帯の上側。文の中心を強弱ではっきり見せます。
朗読速度	5.5 モーラ/秒	64モーラ÷総時間	間を含む、録音全体の進み方です。間の比率と重なるため、召喚判定の速度軸には使いません。
調音速度	6.9 モーラ/秒	200 ms以上の間を除外	間の外では、自然に進む速さです。
200 ms以上の間	21 %	録音時間に占める割合	意味の節目に必要な間を置きます。
朗読スペクトル重心 (0-8 kHz)	1216 Hz	同一文・同一端末・同一距離で比較	この録音の0-8 kHz内で、低中域側へ強く重みが集まる帯域配分です。録音距離や環境音で変化するため、同じ条件で比較します。
Ⅱ 声の安定性 持続母音「あ」			
周期指標は本装置内での比較に用います。他装置・文献の値とは直接比較できません。			
Jitter local	0.602 %	周期長の短期変動	小さな動きを含みながら、周期の輪郭をよく保っています。
Shimmer local	5.087 %	周期振幅の短期変動	振幅に穏やかな動きを含み、硬すぎない質感です。
HNR	16.6 dB	調波成分と雑音成分の比	周期成分と非周期成分が共存し、なめらかさに少し空気感を含みます。
音高の安定幅	±14.9 cent	中央安定区間	持続中の音高の動きです。小さいほど一定の高さを保っています。
追跡品質			
状態	成立	基本周波数・時間構造の追跡条件	主要な追跡条件を満たしています。スペクトル系の値は録音距離・環境音で変化するため、同じ条件で比較します。

比較の条件

固定朗読から語りの動きと間を、特徴母音「あ」から周期性を計測しています。声の高さは、本人が選んだ比較目安がある場合だけ高低を読み、装置が声から性別を推測することはありません。変化を比べるときは端末・距離・文章・録音場所を揃えてください。周期指標は本装置内で比較します。

音響魔女の研究記録

この頁は、数値の算出方法と再現条件を記録した任意添付の技術別紙です。音響値はブラウザ上で計算し、同じ装置・同じ録音条件で声の特徴を比較するために用います。装置・帳票版：ver.0.10.0 / 解析仕様版：analysis_version 3.6 / engine：noctis-yin-cycle-lab-v2

I 共通の前処理

- 入力：ブラウザが復号した波形を使用。複数チャンネルは平均してモノラル化し、先頭から最大30秒を解析します。
- 端点：20 msごとのRMSから録音ごとの閾値を作り、先頭・末尾の無音を除外。検出区間の前後には120 msを残します。
- 基本周波数：60-500 HzをYIN系の周期推定で追跡。約30 msの比較窓、20 ms刻みで求め、信頼度0.68以上の候補を採用します。
- 較正：音圧校正、端末の周波数応答補正、マイクの自動処理補正は行いません。端末・距離・部屋の違いは値に残ります。

II 固定朗読の観測

指標	算出方法
声の高さ	有声フレームのF0中央値。音名は最近接音へ丸め(±50 cent)、比較目安は依頼者が選んだ場合のみ使用します。
抑揚	F0の10-90パーセンタイル幅を $12 \log_2(P90/P10)$ で半音へ変換。
強弱	短時間RMS (約43-46 ms) をdB化し、5フレーム中央値処理後、発話区間を180 msで平滑化。その音量輪郭の標準偏差を±dB表示。
朗読速度	固定文64モーラ ÷ 最初の発話から最後の発話までの時間。
調音速度	64モーラ ÷ 上記時間から200 ms以上の間を除いた時間。召喚判定の速度軸にはこちらを使用。
間	200 ms以上連続した低RMS区間が、朗読区間に占める割合。
重心	Hann窓2048 sample / hop 512。発話フレームごとに0-8 kHzの振幅重み付き周波数平均を求め、全フレームを平均。

III 持続母音「あ」

指標	算出方法
解析区間	約5秒の母音から立上がり・終端を避け、中央の最大3.2秒を使用。
音高安定幅	中央区間のF0をcentへ変換し、中央値まわりの標準偏差を表示。
Jitter local	隣接周期長の絶対差平均 ÷ 平均周期長 ×100。波形相関で追跡した周期列から算出。
Shimmer local	隣接周期のpeak-to-peak振幅差平均 ÷ 平均振幅 ×100。
HNR	60 ms窓・10 ms刻みの正規化自己相関から $10 \log_{10}(r/(1-r))$ を求め、中央値を採用。
周期追跡の採用	追跡アンカーを25周期以上要求し、中央値から大きく外れる周期を除外。必要数と品質条件を満たした場合のみ「採用」と表示します。周期数そのものは表示しません。

IV 採用と非掲載の掟

周期追跡は、YIN・短時間F0・周期波形の三経路を照合します。装置内部では追跡の成立と三指標の表示可否を別に判定しますが、顧客向け数値プロフィールでは、どちらかが条件を外れた場合も同じ非掲載案内に統一します。

追跡ガード：確信度0.82以上 / 音高SD 45 cent以下 / 平均波形相関0.72以上 / 周期中央値絶対偏差2.5%以下 / 周期外れ6%以下 / 周期F0とYIN中央値の差3%以下 / Jitter local ≤ max (1.8%, 4×短時間F0近傍差+0.8%)。

表示ガード：Jitter 0-3% / Shimmer 0-12% / HNR 8-60 dB。三指標のいずれか一つでも範囲外なら、Jitter・Shimmer・HNRを一括して非掲載にします。周期系三指標が掲載されない場合も、掲載可能な観測軸のみで召喚判定を行います。成立した観測軸が二つに満たない場合は、召喚を見送ります。これらは診断基準ではなく、装置が不確かな値を語らないための技術条件です。